

第4章 特異な出火原因別火災状況

1 天ぷら油火災

○ 焼損表面積は 238 m²で、最近 10 年間で最も少なくなっています。

(1) 火災状況

ここでいう「天ぷら油火災」とは、調理に起因して発生（器具の誤操作等は除く。）し、動植物油から出火して火災（凝固剤関係を含む。）となったものです。

ア 年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 4-1-1 で、令和 3 年中の発火源別状況及びガス設備機器別状況をみたものが図 4-1-1 及び図 4-1-2 です。

表 4-1-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災の種類										損害状況				
	合計	建小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	車両	船舶	その他	焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者	
24年	238	238	-	2	39	197	-	-	-	189	144	61,380	-	95	
25年	237	237	3	-	52	182	-	-	-	616	279	99,596	-	112	
26年	217	217	4	4	41	168	-	-	-	1,127	633	173,937	-	96	
27年	236	236	3	6	53	174	-	-	-	1,122	754	180,189	-	110	
28年	213	213	1	5	26	181	-	-	-	426	503	162,316	-	102	
29年	220	220	2	4	46	168	-	-	-	708	414	195,459	-	86	
30年	164	162	-	1	38	123	-	-	2	114	347	49,473	-	76	
元年	173	171	-	3	32	136	-	1	1	295	308	115,676	-	57	
2年	197	196	-	3	39	154	1	-	-	359	414	159,205	-	84	
3年	176	176	1	3	22	150	-	-	-	435	238	124,650	-	65	

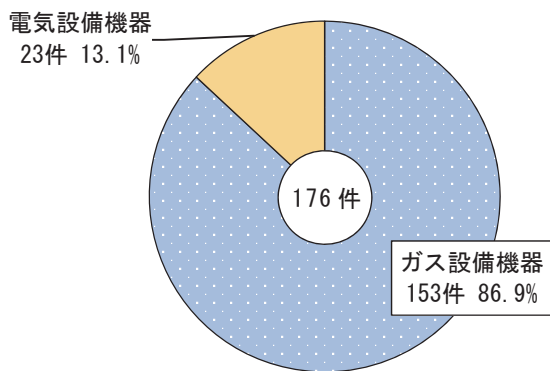


図 4-1-1 発火源別状況

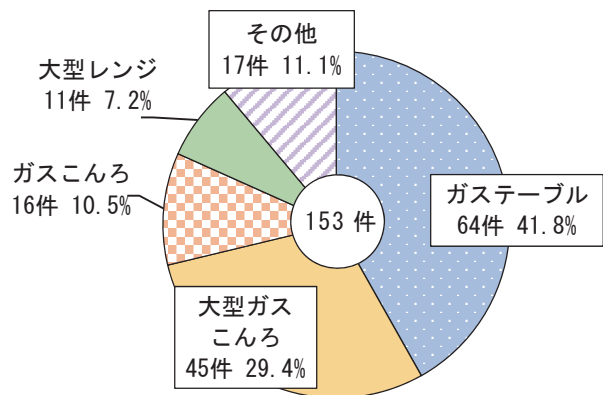
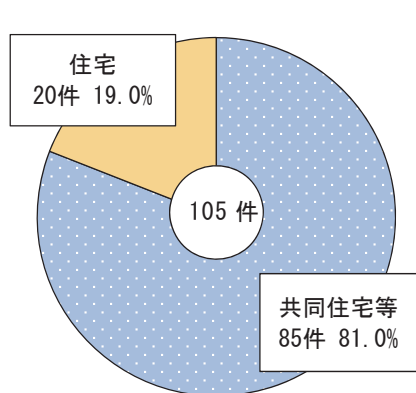


図 4-1-2 ガス設備機器別状況

- 令和 3 年中の火災件数は 176 件で、前年と比べて 21 件（10.7%）減少。
- 発火源別状況は、「ガス設備機器」が 153 件（86.9%）で 8 割以上を占める。
- ガス設備機器別状況は、「ガステーブル」が 64 件（41.8%）で最も多い。

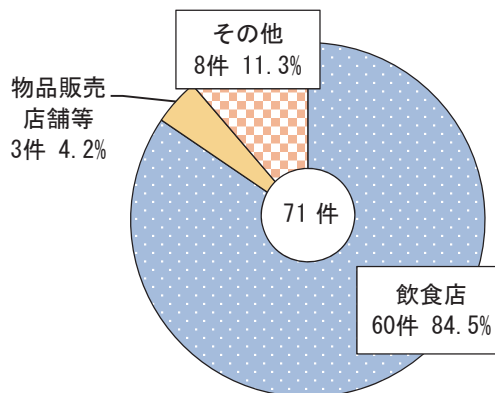
イ 用途別の発生状況

令和3年中の用途別の火災状況を住宅や共同住宅等の居住用途部分（以下「居住用途部分」という。）と居住用途部分以外でみたものが図4-1-3及び図4-1-4です。



注 住宅は複合用途の住宅部分を含みます。

図4-1-3 居住用途部分の発生状況



注 その他は学校や宿泊所などです。

図4-1-4 居住用途部分以外の発生状況

- 居住用途部分105件のうち、「共同住宅等」が85件（81.0%）で8割以上を占める。
- 居住用途部分以外71件のうち、「飲食店」が60件（84.5%）で8割以上を占める。

ウ 用途別時間別発生状況

最近5年間の天ぷら油火災930件のうち、出火時間が不明の3件を除いた927件の時間別の火災状況をみたものが図4-1-5です。

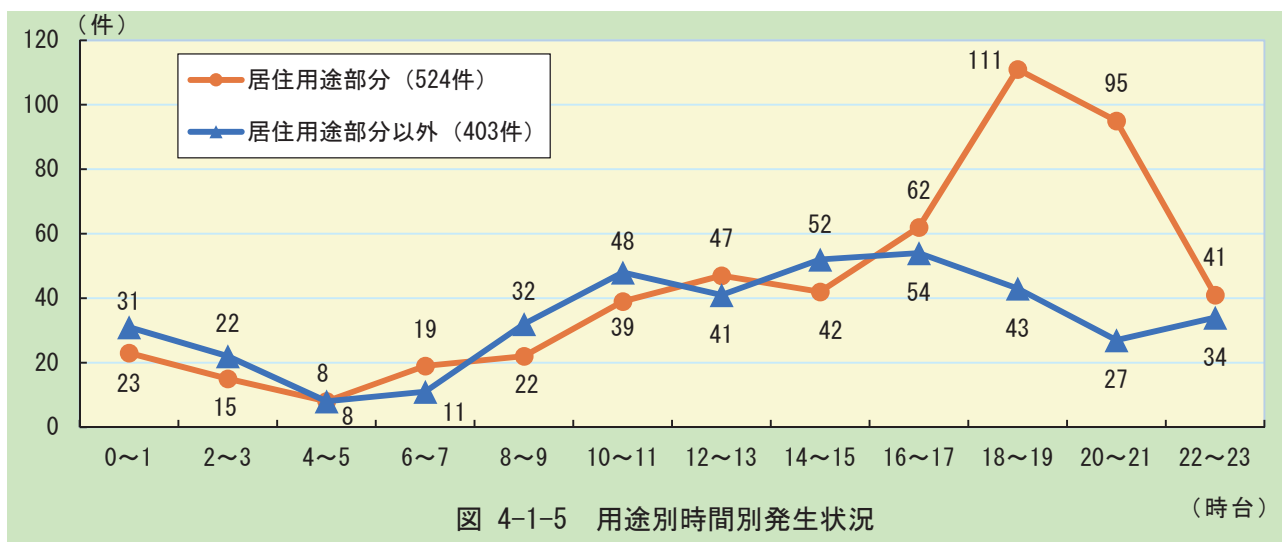


図4-1-5 用途別時間別発生状況

- 居住用途部分524件のうち、「18時～19時台」が111件（21.2%）で最も多い。
- 居住用途部分以外403件のうち、「16～17時台」が54件（13.4%）で最も多く、次いで「14～15時台」が52件（12.9%）。

(2) 出火理由と行為者

ア 年齢別発生状況

年齢不明の4件を除いた令和3年中の用途別年齢別の状況172件をみたものが、表4-1-2です。

表4-1-2 用途別年齢別発生状況

出火用途	合計	年齢区分							
		15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
合計	172	-	6	53	28	31	21	9	24
居住用途部分	103	-	6	36	19	13	12	2	15
共同住宅等	84	-	6	34	14	10	9	1	10
住宅	19	-	-	2	5	3	3	1	5
居住用途部分	69	-	-	17	9	18	9	7	9
飲食店	59	-	-	16	8	16	8	5	6
用品販売店舗等	2	-	-	-	-	1	1	-	-
その他	8	-	-	1	1	1	-	2	3

注 「住宅」は、複合用途の住宅部分4件を含んでいます。

- 居住用途部分103件のうち、「20～29歳」が36件(35.0%)で最も多い。
- 居住用途部分以外69件のうち、「40～49歳」が18件(26.1%)で最も多く、次いで「20～29歳」が17件(24.6%)。

イ 用途別出火理由

令和3年中の天ぷら油火災176件のうち、経過が「放置する・忘れる」により出火した133件について、用途別の出火理由をみたものが表4-1-3です。

表4-1-3 用途別出火理由

出火用途	合計	仕事の部屋	テレビをみた	外出した	食事をした	その場を離れた雑談した	寝込んだ	他の部屋で片付けをした	用便にいった	電話に出た	その他
		合計	133	39	11	10	10	9	8	6	5
居住用途部分	74	10	8	4	8	4	7	6	3	3	21
共同住宅等	56	8	8	2	7	3	4	4	2	3	15
住宅	18	2	-	2	1	1	3	2	1	-	6
居住用途部分	59	29	3	6	2	5	1	-	2	2	9
飲食店	51	24	2	5	2	5	1	-	2	2	8
用品販売店舗等	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	7	4	1	1	-	-	-	-	-	-	1

注 「住宅」は、複合用途の住宅部分4件を含んでいます。

- 居住用途部分74件のうち、「他の部屋で仕事をした」が10件(13.5%)で最も多い。
- 居住用途部分以外59件のうち、「他の部屋で仕事をした」が29件(49.2%)で最も多い。

(3) 初期消火状況

令和3年中の初期消火のなかった火災10件を除いた166件について、初期消火状況を居住用途部分と居住用途部分以外に分けてみたものが図4-1-6、図4-1-7です。

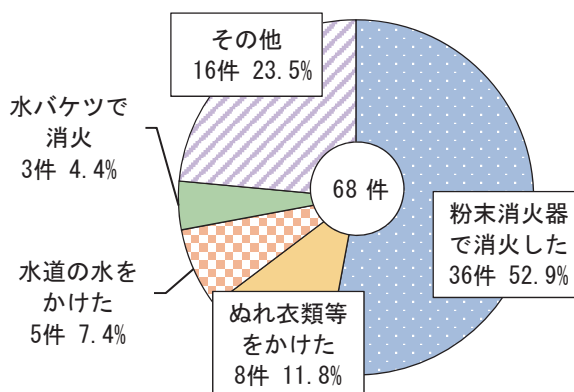
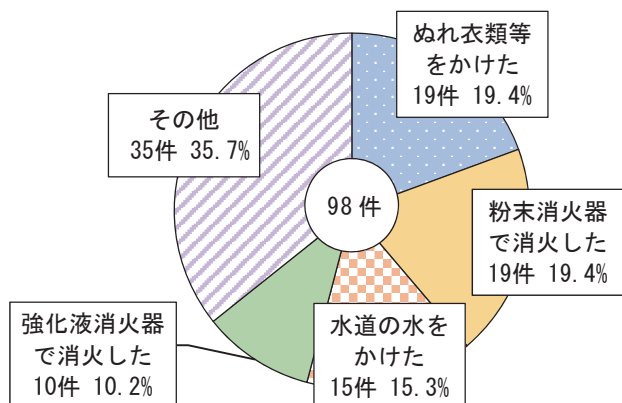


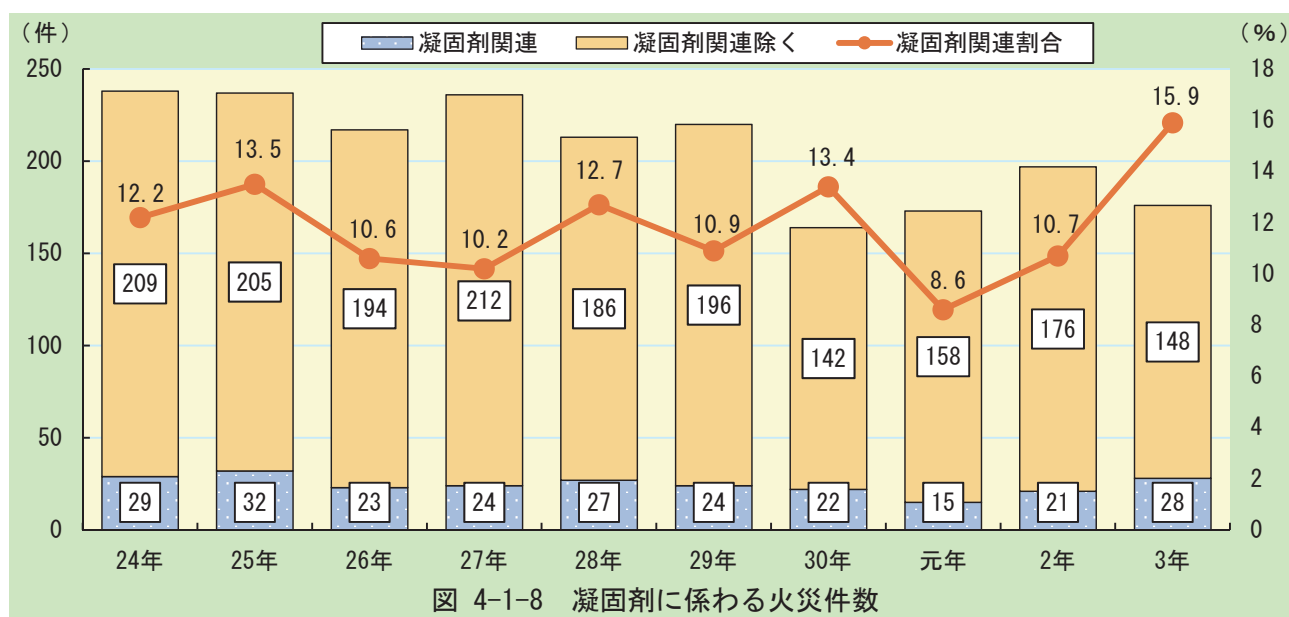
図 4-1-6 居住用途部分の初期消火状況

図 4-1-7 居住用途部分以外の初期消火状況

- 居住用途部分98件のうち、「ぬれ衣類等をかけた」及び「粉末消火器で消火した」が19件（19.4%）で最も多い。
- 居住用途部分以外68件のうち、「粉末消火器で消火した」が36件（52.9%）で最も多い。

(4) 凝固剤に係わる火災

最近10年間の天ぷら油火災のうち凝固剤に係わる火災件数をみたものが図4-1-8です。



- 令和3年中の凝固剤関連火災は28件で前年と比べて7件（25.0%）増加し、最近10年間では3番目に多い件数となっている。

2 危険物類

- 火災件数は94件で、前年比べて18件（23.4%）増加。
- 94件中、着火物が危険物類であった火災は72件（76.6%）、発火源が危険物類であった火災は23件（24.5%）となっています。

ここでいう「危険物類」の火災とは、危険物（法別表第一に掲げる物品）及び自然発火の恐れのある物質（石灰・揚げ玉等）が、発火源または着火物である火災をいい、危険物は指定数量*の5分の1未満のもの（天ぷら油火災を除く。）を取り上げています。

(1) 火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表4-2-1です。

表 4-2-1 危険物類の年別火災状況（最近10年間）

年別	火災合計	建物					車両	船舶	航空機	その他	損害状況				
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや					焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
24年	148	76	4	1	11	60	61	-	-	11	1,408	215	526,489	4	42
25年	147	85	5	3	14	63	52	-	-	10	1,061	239	895,933	1	39
26年	137	68	1	2	6	59	56	1	-	12	1,473	325	219,783	2	44
27年	129	77	5	4	6	62	39	-	1	12	1,017	287	231,889	6	44
28年	125	65	1	2	12	50	45	-	-	15	156	104	64,874	-	50
29年	114	60	5	2	13	40	43	-	-	11	1,070	315	162,067	1	38
30年	108	58	-	1	13	44	41	1	-	8	126	277	104,451	1	23
元年	121	73	4	2	15	52	33	-	-	15	847	226	162,738	5	26
2年	76	30	-	1	3	26	36	-	-	10	56	51	40,816	-	20
3年	94	37	4	2	3	28	49	-	-	8	533	568	94,434	3	23

- 火災種別で見ると、建物火災は37件（39.4%）発生し、前年と比べ7件増加。車両火災は49件（52.1%）発生し、前年と比べ13件増加。
- 全火災件数（治外法権火災及び管外からの延焼火災を除く。）に占める危険物類の火災の割合は2.4%。

(2) 着火物別の火災状況

ア 着火物の類別火災状況

危険物類の火災 94 件中、着火物が危険物類であった火災は 72 件発生しており、これを類別に火災状況を表したものが表 4-2-2 です。

表 4-2-2 着火物別火災状況

着 火 物	火 災 種 別								損 害 状 況					
	合 計	建 物					車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者	負 傷 者		
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ ぼ や								
合 計	72	21	3	2	3	14	46	4	440	421	3	22		
第 二 類	引 火 性 固 体	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
第 一 類	第 一 石 油 類	ガ ソ リ ン	32	5	1	1	1	2	26	1	110	6	1	10
		シ ン ナ ー ・ ラ ッ カ ー	2	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
		ト ル エ ン	1	1	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-
		そ の 他 の 第 一 石 油 類	3	2	-	-	1	1	1	-	-	3	-	3
第 四 類	ア ル コ ー ル 類	6	5	-	-	-	5	-	1	-	-	-	3	
	第 二 石 油 類	灯 油	4	3	2	-	-	1	1	-	230	334	2	1
第 四 石 油 類		潤 滑 油	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	エ ン ジ ン オ イ ル	6	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	
	ギ ャ ー オ イ ル	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	
	マ シ ン オ イ ル	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
	そ の 他 の 潤 滑 油	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
そ の 他 の 四 石 油 類	2	1	-	1	-	-	1	-	100	75	-	2		
そ の 他 の 危 険 物	5	2	-	-	-	2	2	1	-	-	-	2		
不 明	2	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-		

着火物が危険物類であった火災 72 件の出火要因別状況をみたものが表 4-2-3 です。

表 4-2-3 出火要因別状況

出 火 要 因 区 分	件 数
合 計	72
維 持 管 理 不 適	18
取 扱 方 法 不 良	13
可 燃 物 の 取 扱 不 適	8
構 造 機 構 不 良 ・ 改 悪 す る	4
火 気 の 取 扱 不 適	4
設 置 (取 付) 工 事 方 法 不 良	4
取 扱 位 置 不 適	2
可 燃 物 の 貯 蔵 不 適	1
そ の 他	16
不 明	2

- 着火物別にみると、「ガソリン」が 32 件 (44.4%) で最も多く 4 割以上を占める。
- 出火要因別にみると、「維持管理不適」が 18 件 (25.0%) で 2 割以上を占める。

イ 出火原因別状況

危険物類の火災 94 件中、着火物が危険物類であった火災 72 件の出火原因別状況をみたものが表 4-2-4 です。

表 4-2-4 類別の出火原因

出火原因	合計	第四類													その他の危険物	不明	
		第二類	第一石油類					アルコール類	第二石油類		第四石油類						
			ガソリン	シンナー・ラッカー	トルエン	その他の第一石油類	灯油		軽油	潤滑油				その他の第四石油類			
										エンジンオイル	ギヤオイル	マシンオイル	その他の潤滑油				
合計	72	1	32	2	1	3	6	4	1	6	3	2	2	2	5	2	
石油機器	計	5	-	1	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	
	石油ストーブ	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
	石油ファンヒーター	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	石油ランプ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	アルコールランプ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
電気機器	計	5	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	
	マントルヒーター	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	研磨機（グラインダ含む）	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電子レンジ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	レーザーメス	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電気乾燥機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
ガス機器	計	5	1	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ブタンガストーチバーナ	3	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガスバーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ガステーブル	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
火種	計	5	-	1	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	
	焼却火	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	たばこ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	ライター	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ロウソク	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
過塩素酸		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
その他		2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
車両		49	-	29	-	-	1	-	1	1	6	3	2	2	1	2	

- 発火源別にみると、「車両」が 49 件（68.1%）で 6 割以上を占める。
- 「車両」を除いた発火源別にみると、「ガス機器」が 6 件（8.3%）、「電気機器」が 5 件（6.9%）、「石油機器」が 5 件（6.9%）、「火種」が 5 件（6.9%）。

(3) 発火源別の火災状況

ア 火災状況

危険物類の火災 94 件中、発火源が危険物類であった火災は 23 件発生しており、これを発火源と業態別に火災状況を表したものが表 4-2-5 です。

表 4-2-5 発火源と業態別火災状況

発火源	合計	業態										
		大 学	建 築 工 事 業	食 肉 小 売 業	日 本 料 理 店	エ ス テ テ ィ ツ ク 業	一 般 食 堂	防 水 工 事 業	料 理 品 小 売 業	酒 場 ・ ビ ヤ ホ ー ル	そ の 他 の 食 堂	そ の 他
合計	23	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
油布	6	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	4
揚げかす	6	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	2
石灰	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
飼料	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ハロゲン化物	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	6	2	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2

イ 経過別状況

発火源が危険物類であった 23 件の火災を経過別にみたものが表 4-2-6 です。

表 4-2-6 経過別火災状況

経過	件数
合計	23
余熱で発火する	13
自然発火する	4
反応が急激に起こる	3
水が混入して発熱する	2
薬品類が互いに混触する	1

- 発火源をみると、「油布」、「揚げかす」が 6 件（26.1%）で 2 割以上を占める。
- 経過別でみると、「余熱で発火する」が 13 件（56.5%）で最も多く、次いで「自然発火する」が 4 件（17.4%）となっており、この 2 つで 7 割以上を占める。

3 エアゾール缶等

- エアゾール缶等関連の火災件数は前年と比べて、21件増加している。
- エアゾール缶等関連の建物火災件数は、最近10年間で最も多い。

(1) 火災状況

ア エアゾール缶の火災状況

ここでいう「エアゾール缶等」の火災とは、可燃性ガスを噴射剤とした整髪剤や消臭剤等のエアゾール缶と簡易型ガスこんろの燃料として用いられるボンベを合わせています。

エアゾール缶等の生産量をみると、令和3年中はエアゾール缶が5億1167万4千本^{注1}で、前年と比べて6,330万本増加しており、簡易型ガスこんろ用燃料ボンベ(通称:カセットボンベ)が1億4529万6千本^{注2}で、前年と比べて780万4千本減少しています。

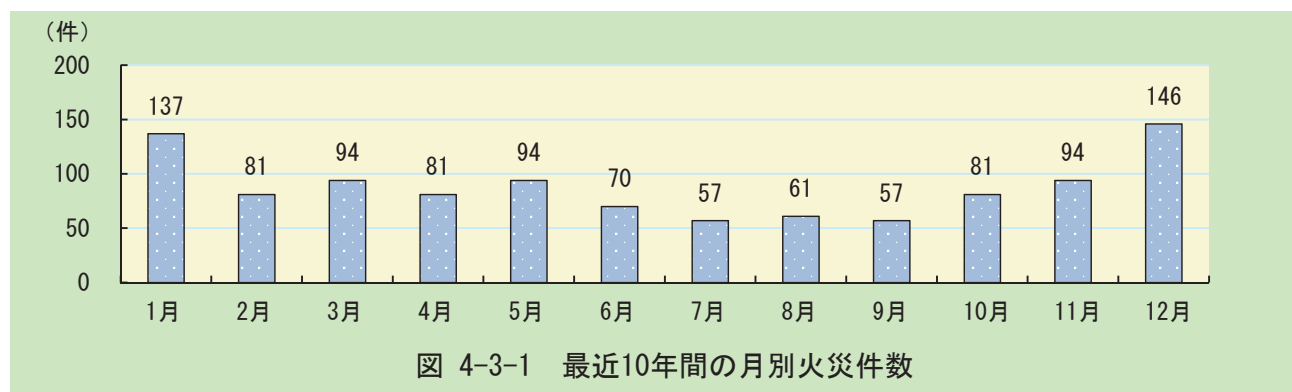
注1 一般社団法人 日本エアゾール協会提供
 注2 一般財団法人 日本ガス機器検査協会提供

イ 年別火災状況

エアゾール缶等関連火災の年別発生状況をみたものが表4-3-1、最近10年間の月別発生状況をみたのが図4-3-1です。

表 4-3-1 年別火災状況 (最近10年間)

年別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物	車	船	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者					
	合計	小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	両	舶	他						
24年	118	61	-	1	4	56	54	1	2	191	14	30,488	-	41	
25年	129	72	-	1	4	67	51	1	5	54	21	10,442	-	55	
26年	121	69	1	1	6	61	45	-	7	263	53	39,331	1	60	
27年	112	67	-	3	1	63	43	-	2	199	2	46,641	-	59	
28年	112	75	1	-	6	68	34	-	3	268	59	40,316	-	73	
29年	72	54	1	4	4	45	17	-	1	404	147	333,573	1	41	
30年	91	73	-	3	8	62	16	-	2	189	144	31,810	-	57	
元年	75	55	2	1	3	49	15	-	5	480	15	47,810	-	51	
2年	101	84	1	2	5	76	14	-	3	652	182	124,625	-	63	
3年	122	103	1	3	7	92	18	-	1	353	136	58,370	1	67	



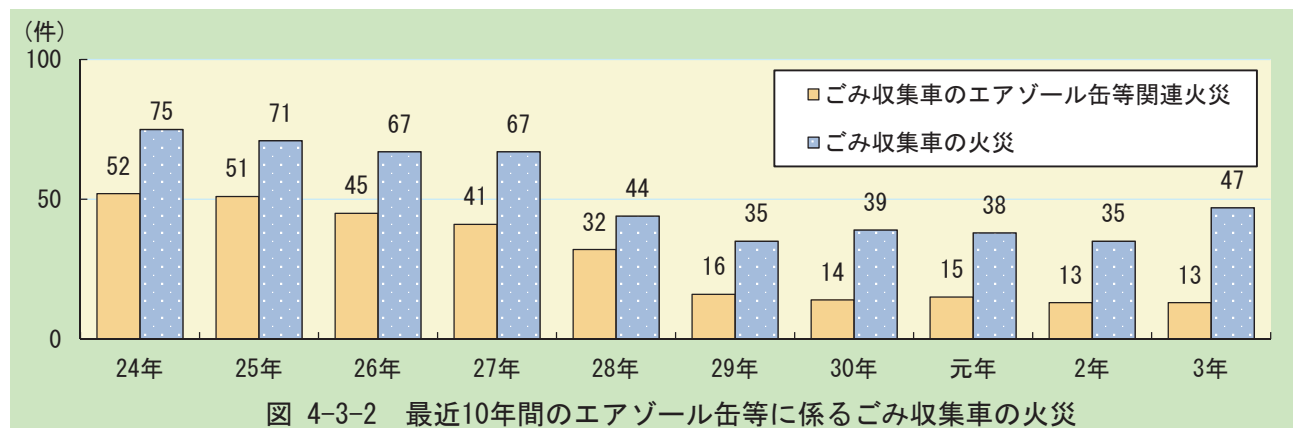
(2) 火災発生要因

火災となったエアゾール缶等のうち、缶の種類ごとにまとめたものが表 4-3-2、最近 10 年間のエアゾール缶等に係るごみ収集車の火災をみたものが図 4-3-2 です。

表 4-3-2 火災発生の要因等

火災発生要因	合計	缶の種類			死者	負傷者		
		エアゾール缶	燃料ボンベ	簡易型ガスこんろ用 その他のボンベ				
合計	122	42	75	5	1	67		
廃棄	穴開け・ガス抜き	20	35	15	4	1	21	
	ごみ収集車	13		10	3	-	-	
	その他	2		2	-	-	1	
取扱不適	装着不良	7	48	-	7	-	2	
	暖房器具	10		5	3	2	1	8
	厨房器具	5		-	5	-	-	4
	その他	26		10	14	2	-	18
構造不適(機器)	39	-	39	-	-	-	13	

- 注 1 暖房器具・厨房器具とは、エアゾール缶等を器具の周囲で使用した、周囲に置いていたため過熱され内圧が高まり破裂しLPG等に引火した火災をいう。
 2 構造不適(機器)とは、ブタンガストーチバーナ等、機器側の不具合により出火した火災をいう。
 3 エアゾール缶には、殺虫剤、消臭スプレー、ヘアスプレー、制汗スプレー、冷却スプレー、パーツクリーナー等を含む。



注 ごみ収集中のごみ収集車から出火した火災(建物屋内を含まない)になります。

- 缶の種類別で見ると、簡易型ガスこんろ用燃料ボンベが 75 件 (61.5%、前年比 31 件増加) でエアゾール缶等関連火災全体の 6 割以上を占める。
- 要因別にみると、廃棄方法に係る火災は 35 件 (28.7%、前年比 12 件減少) 発生し、取扱不適に係る火災は 48 件 (39.3%、前年比 13 件増加) 発生している。

ア 廃棄（穴開け・ガス抜き）によるもの

- 廃棄により工具や缶切り等で缶に穴を開けたため、残存していたガスが噴射し近くの火気の炎に引火した火災は、20件（16.4%、前年比10件減少）発生している。
- 火災発生要因別負傷者数をみると、廃棄による火災の負傷者が24人（35.8%）で最も多い。

イ 廃棄（ごみ収集車）によるもの

- ごみ収集車から出火した火災は47件で、そのうちごみ収集車荷箱内でごみとして収集されたエアゾール缶等から出火した火災は、13件（27.7%）発生している。
- 平成24年以降緩やかに減少傾向がみられ、平成29年以降は10件台を推移。
- 最近10年間の火災件数292件の焼損程度をみると、延焼火災は21件（7.2%）

ウ 取扱不適（装着不良）によるもの

- 簡易型ガスコンロ用燃料ポンベの装着が不十分だったため、接続部から燃料ガスが漏れて出火した火災は8件（6.6%、前年と比べて1件増加）発生している。
- ポンベを装着する際は、ポンベ本体の切欠き部の位置をよく確認してから、簡易型ガスコンロの容器受けガイドに合わせて正しく取り付けることが重要である。

エ 取扱不適（暖房器具）によるもの

- 暖房器具に起因して出火した火災は10件で（8.2%、前年比2件増加）発生しており、死者1名、傷者7名が発生している。

オ 取扱不適（厨房器具）によるもの

- 厨房器具に起因して出火した火災は19件で、そのうち簡易型ガスコンロ用ポンベに起因している火災が14件（73.7%）発生している。
- 厨房器具に起因した火災で傷者が13名（19.4%、前年と比べて11名増加）発生している。

(3) ブタンガストーチバーナの火災発生状況

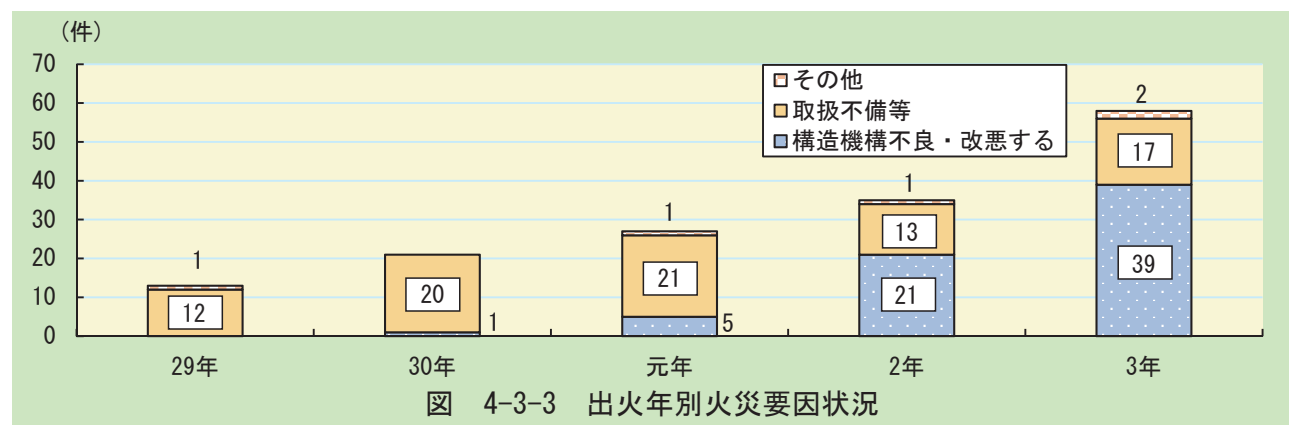
ここでいうブタンガストーチバーナとは、簡易型ガスこんろ用燃料ボンベ（通称：カセットボンベ）に、点火装置と炎口が付属している本体を接続し、ガス流量と空気取入量を調節しながら点火装置（イグナイタ）で着火する器具です。近年は一般家庭にも普及し、料理の調理レシピ等に紹介され、自宅でガスバーナを使用した炙り料理やお菓子づくり等で使用されています。

ア 年別火災状況

ブタンガストーチバーナ関連の火災状況をみたものが表 4-3-3、出火年別火災要因状況をみたものが図 4-3-3 です。

表 4-3-3 ブタンガストーチバーナ関連の火災状況（最近5年間）

年別	火災発生状況											
	合計	建物					車両	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
29年	13	10	-	2	-	8	1	2	39	7	-	6
30年	21	21	-	-	1	20	-	-	3	-	-	8
元年	27	23	-	-	6	17	-	4	27	76	-	15
2年	35	28	-	1	1	26	2	5	45	41	-	8
3年	58	58	-	1	7	50	-	-	64	38	1	16
対前年比	23	30	-	-	6	24	▼2	▼5	19	▼3	1	8
5年平均	31	28	-	1	3	24	1	2	36	32	-	11



- ブタンガストーチバーナに起因する火災は58件発生し、前年と比べて23件増加しており、5年平均でも27件増加している。
- 出火要因をみると、「構造機構不良・改悪する」が要因の火災は、39件（67.2%）で、前年と比べると2倍近く増加しており、最近5年間では最多となっている。
- 死傷者をみると、死者は1人発生しており、傷者が16人発生しており、最近5年間では最多となっている。

イ 行為者年代別火災状況

最近5年間の行為者年代別発生状況をみたものが図 4-3-4、死傷者の程度別状況をみたものが図 4-3-5 です。

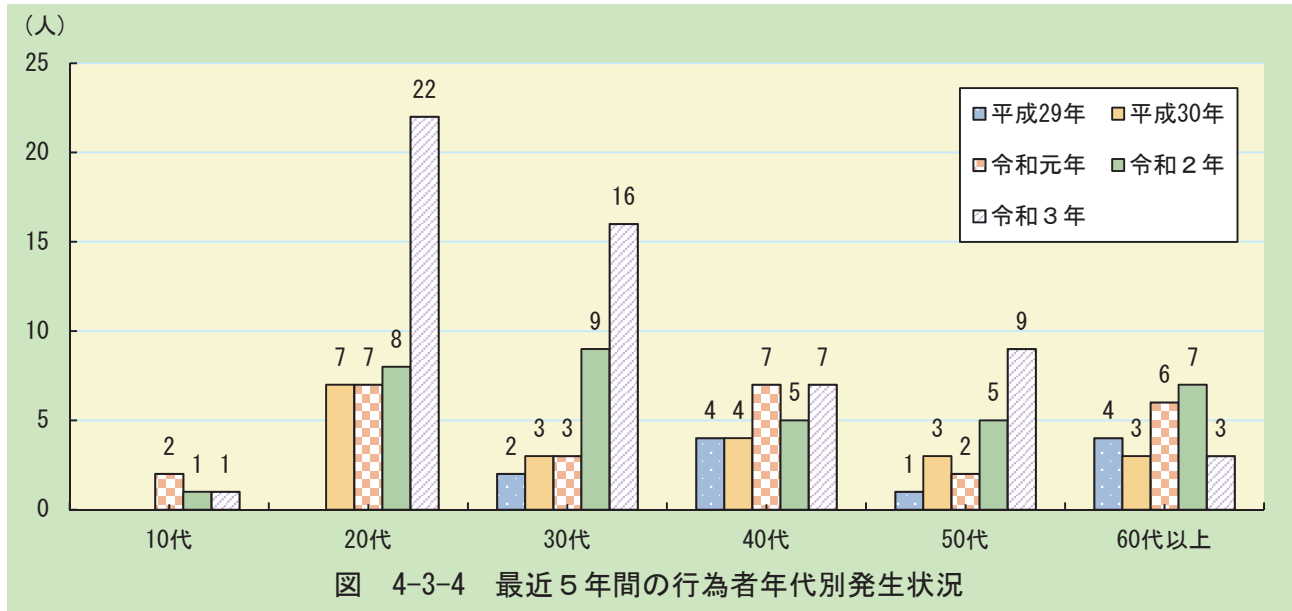


図 4-3-4 最近5年間の行為者年代別発生状況

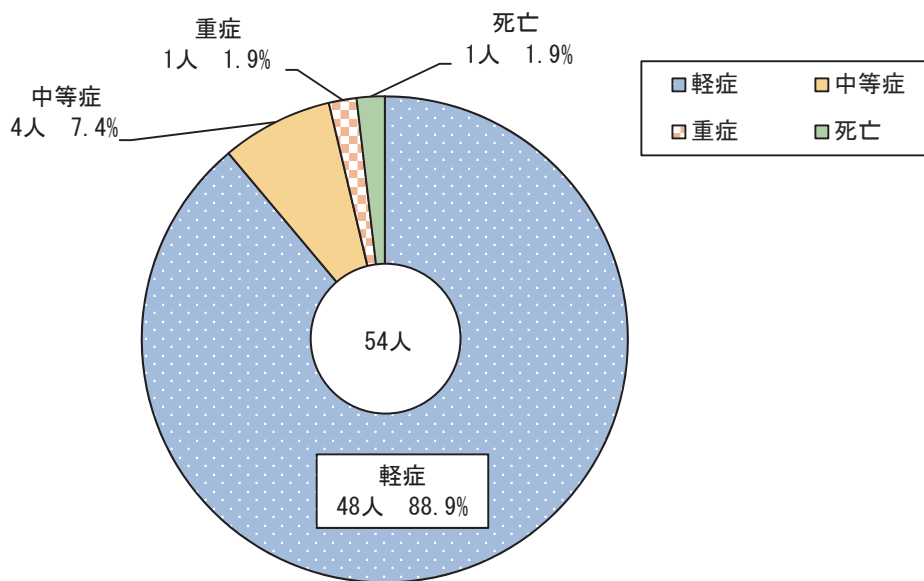


図 4-3-5 死傷者の程度別状況

- 令和3年の行為者年代別発生状況をみると、20代が22人（37.9%）、次いで30代が16人（27.6%）となっており、最近5年間では最多となっている。また、20代と30代を合計した人数は全体の5割以上を占める。
- 最近5年間のブタンガストーチバーナに起因している死傷者の受傷程度をみると、死者は1人発生し、軽症が48人（88.9%）で、次いで中等症が4人（7.4%）となっている。

第4章

4 爆 発

- 爆発火災の件数が最近 10 年間で、3 番目に少ない件数となっています。
- 火災による爆発で死者 2 人、負傷者 20 人発生しています。

(1) 火災状況

ここでいう「爆発火災」とは、「爆発のみの火災」、「爆発による火災」、「火災による爆発」に分類されます。「爆発のみの火災」は、焼損物件がなく破損物件のみの火災で「ぼや火災」として取り扱っています。「爆発による火災」は、爆発後に火災になったもの、「火災による爆発」は、火災発生に起因して 2 次的に爆発したものをいいます。

爆発火災の年別火災状況をみたものが表 4-4-1 です。

表 4-4-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 種 別										損 害 状 況				
	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 (千円)	死 者	負 傷 者	
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
24 年	24	22	-	1	1	20	1	-	1	43	15	38,543	-	15	
25 年	23	20	-	1	-	19	2	-	1	38	-	26,848	-	21	
26 年	21	15	-	-	2	13	-	1	5	-	7	24,050	1	19	
27 年	22	20	1	-	1	18	-	-	2	358	25	75,818	-	30	
28 年	19	16	-	1	3	12	2	-	1	147	222	63,879	-	23	
29 年	15	14	-	-	2	12	1	-	-	13	12	37,093	-	13	
30 年	24	24	-	-	4	20	-	-	-	82	127	14,965	-	23	
元 年	25	20	-	-	1	19	-	-	5	18	-	5,469	1	21	
2 年	16	14	1	-	-	13	1	-	1	41	31	8,267	-	13	
3 年	17	15	-	-	2	13	-	-	2	27	14	70,060	2	20	
爆発火災 の種別	火災による爆発	17	15	-	-	2	13	-	-	2	27	14	70,060	2	20
	爆発による火災	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	爆発のみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注 爆発現象（物理爆発を除く。）とは、化学的変化による燃焼のひとつの形態であり、急速に進行する化学反応によって多量のガスと熱を発生し、爆鳴・火炎及び破壊作用を伴う現象をいいます。

- 爆発火災の件数は 17 件で、前年と比べて 1 件増加。内訳をみると、建物火災が 15 件発生し、その他火災が 2 件発生。
- 令和 3 年中の「爆発による火災」、「爆発のみ」はありません。

(2) 出火原因及び建物用途別の発生状況

発火源と着火物との状況をみたものが表 4-4-2、建物用途別にみたものが表 4-4-3 です。

表 4-4-2 主な発火源と着火物との状況

発火源	合計	着火物										
		ガス					都市ガス	プロパンガス	引火性溶剤	引火性塗料	ガソリン	水素
		燃料ボンベ	簡易型	ガスこんろ	エアゾール缶	その他のガス						
合計	17	8	3	1	1	1	1	1	1	1	1	
火災による爆発	簡易型ガスこんろ	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ブタンガストーチバーナ*	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	
	ライター	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
	炭火	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガステーブル	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
	大型ガスこんろ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	簡易型ガストーブ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	焼肉炉	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	給湯器	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	風呂がま	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
	石油ストーブ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガスバーナ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
	アセチレンガス切断器	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ガスファンヒータ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-		

注 令和3年中は、「爆発による火災」及び「爆発のみ」の火災はありません。

表 4-4-3 用途別の発生状況

項目	用途	合計	着火物										
			ガス					都市ガス	プロパンガス	引火性溶剤	引火性塗料	ガソリン	水素
			燃料ボンベ	簡易型	ガスこんろ	エアゾール缶	その他のガス						
合計		17	8	3	1	1	1	1	1	1	1		
3項目	飲食店	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-		
5項目	共同住宅	7	2	2	1	-	1	-	-	1	-		
12項目	作業場	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
非該当	住宅	6	3	1	-	1	-	1	-	-	-		

- 爆発火災の着火物をみると、簡易型ガスこんろ用燃料ボンベが8件（47.1%）と約5割を占める。
- 共同住宅と住宅の居住用途で発生したものが13件（76.5%）で最も多い。

5 社告品等から出火した火災

- 社告品等から出火した火災は17件で全て電気設備機器。
- 平成29年以降、社告品等から出火した火災件数が10件台で推移しているが、平成29年以降の件数では最多。

(1) 火災状況

ここでいう「社告品」とは、製造業者等が新聞等の各種広報媒体を通じて消費者に対して、火災発生のおそれがある等の緊急の知らせを実施している製品のことをいい、流通及び販売段階からの回収、消費者の保有する製品の交換、改修（点検・修理など）又は引き取りなどのリコール製品も含んでいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表4-5-1です。

表4-5-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災種別								損害状況				
	合計	建物					車	その他	焼損床 (m^2 積)	焼損表 (m^2 積)	損 (千円 額)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	両						
24年	23	22	-	-	4	18	-	1	7	2	2,867	-	3
25年	22	19	-	-	3	16	2	1	30	7	13,404	-	4
26年	24	22	-	-	4	18	1	1	12	35	2,407	-	2
27年	23	22	-	-	1	21	1	-	-	1	814	-	2
28年	22	17	-	-	-	17	3	2	-	-	490	-	3
29年	13	13	-	-	-	13	-	-	-	-	449	-	1
30年	16	15	-	-	2	13	1	-	6	25	843	-	4
元年	15	11	-	-	2	9	2	2	20	10	4,741	-	1
2年	15	12	-	-	2	10	3	-	-	3	6,757	-	2
3年	17	15	-	-	3	12	-	2	15	7	6,152	-	3

- 社告品等に関連した火災件数は17件で、前年より2件増加し、火災種別で見ると、建物火災が3件増加。
- 死傷者をみると、死者の発生はなく、負傷者が3人発生。

(2) 電気設備機器

電気設備機器から出火した社告品をみたものが表 4-5-2、その発火源内訳をみたものが図 4-5-1 です。

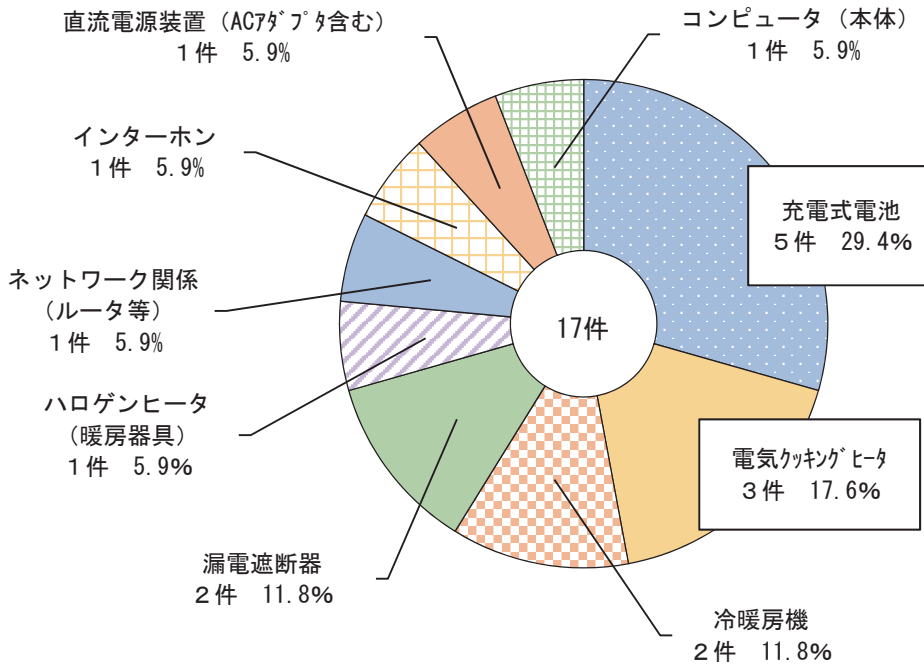


図 4-5-1 電気設備機器火災の発火源内訳

○ 社告品から出火した火災 17 件のうち、充電式電池が 5 件 (29.4%)、電気クッキングヒータが 3 件 (17.7%)。

表 4-5-2 社告品の電気設備機器から出火した火災 (令和 3 年中)

製品名	メーカー名・品番	社告日	製造期間・販売期間	社告内容
充電式電池	ポータブル電源「PS5B」用 AC アダプター メイヤンパワー新エネルギー有限公司 型式: PS5B	H30. 2. 14	時期指定なし	AC アダプターの一部に不具合品が流出し事故が発生する。
	掃除機用リチウムイオンバッテリー すみとも商店 販売会社 OrangeLine 型番: Orange Line DC60 20001 V6 2200	R3. 8. 16	R2. 11 ~ R3. 4 販売	当該バッテリーを電気掃除機に取り付けていたところ、バッテリーから発火に至るおそれがある。 なお当庁管内で 2 件発生している。
	電気掃除機用互換バッテリー ロワ・ジャパン有限会社 型番: DC62-J	R3. 10. 1	R2. 11 ~ R3. 8 販売	当該バッテリーを電気掃除機に取り付けていたところ、バッテリーから発火に至るおそれがある。

	電動アシスト自転車用 リチウムイオンバッテリー ヤマハ発動機株式会社 型番 X83-00、X83-01、X83-02 X83-20、X83-21、X83-22	R3. 1. 26	H24. 1 ~ R3. 1 販売	電動アシスト自転車用及び交換用バッテリーパックにおいて、バッテリー内部の劣化等により、バッテリー内部より発火する可能性がある。
電 気 ク ツ キ ン グ ヒ ー タ	小形キッチンユニット用電気こんろ パナソニック株式会社 (旧社名 松下電器産業株式会社) 型式：NK-1102	H19. 7. 4	S52 ~ S63 製造・販売	身体や物が接触し、意図せずスイッチが「入」となる可能性がある構造であったために、電気こんろの上や周囲に可燃物が置かれていた場合に火災に至る。
	小形キッチンユニット用電気こんろ 株式会社ハウステック (旧社名 日立化成工業株式会社) 型式：KM-903S		S59. 4 ~ S63. 9 販売	
	小形キッチンユニット用電気こんろ 日立アプライアンス株式会社 (旧社名 日立熱器具株式会社) 型式：HT-1290	H19. 7. 31	S60 ~ H16 製造・販売	
冷 暖 房 機	ルームエアコン室外機 ダイキン工業株式会社 型番：RAZ225X	H16. 10. 18	H7. 1 ~ H10. 3 製造	室外機のプリント基板のはんだ部分に亀裂が生じて、スパークが発生し、発煙、発火に至る可能性がある。
	ルームエアコン 三菱重工サーマルシステムズ株式会社 三菱重工冷熱株式会社 (旧三菱重工株式会社) 型式：SRK28ZH-W	H30. 1. 11	H11. 10 ~ H19 輸入・販売	送風用ファンモータのリード線接続部から発火に至るおそれがある。
漏 電 遮 断 器	漏電遮断器 三菱電機株式会社 型名：NV250-CV	H27. 6. 24	自主回収	電子回路基板の故障により正常通電中にトリップ（遮断）動作し、再投入できない事象が発生する。
	漏電遮断器 三菱電機株式会社 型名：NV63-CV	H27. 6. 24	自主回収	電子回路基板の故障により正常通電中にトリップ（遮断）動作し、再投入できない事象が発生する。
ハ ロ ゲ ン ヒ ー タ	遠赤外線ハロゲンヒーター 大宇電子ジャパン株式会社 型式：SD-80G	H15. 2. 28	H14. 11 ~ H15. 2 販売	弱（400W）で使用すると、内部の電圧切り替え部品（ブリッジダイオード）が壊れて発熱し、発煙、発火に至るおそれがある。
関 ネ 係 ッ （ ル ー ト ワ ー ク ）	PoE スイッチ アライドテレシス株式会社 型番：FS909M-PS	H26. 10. 3	H18. 7 ~ H23. 9 製造	一部機種、ロットにおいて、装置内電源ユニットの故障により、稀に焼損に至る可能性がある。

イン ター ホン	テレビドアホン アイホン株式会社 型式：MY-2CD	H20. 6. 2	H4. 8 ~ H11. 9 製造	長年の使用による電子部品の経年劣化 および内部配線処理の影響によって、 ごく稀に絶縁劣化が発生して発煙に至 る可能性がある。
直 流 電 源 装 置	ACアダプター DynaBook株式会社 (旧社名 東芝クライアントソリュー ション株式会社) 型番：G71C0009S210	H30. 6. 22	H21. 12 ~ H23. 7 製造	ACアダプターの一部で使用された材料 の劣化により、発煙発火に至る可能性 がある。
ハ コ ン ド ピ デ ユ ー ス タ ス ク (本 体 ・ 含 む)	タブレット端末 (Lenovo Yoga Tablet2) Lenovo 機種 YOGA Tablet2-830L	R2. 5. 12	H26. 9 ~ H27. 12 製造	タブレット端末に内蔵しているリチウ ムイオンバッテリーパックが焼損する 可能性がある。